

# 正弦波回折型3焦点IOLの可能性

～わかってきた利点と課題点からの展望～

日時 2026年 4月11日(土) 11:50 ~ 12:50

会場 Room 5 福岡国際会議場 4F (411+412)

座長



佐々木 洋 先生(金沢医科大学)

独自の正弦波回折構造を有する新しい3焦点IOL“アクリバトリノバPro”は、球面度数0.0~+4.5Dの範囲も製品化され、これまで選定療養対象多焦点IOLとして選択できなかった強度近視眼にも適応範囲が拡大されたことも追い風となり、昨夏の発売以降、その使用機会は拡がりを見せている。そして、トーリックモデルも追加発売され、更なる臨床貢献が期待されている。

術後早期において、遠方から近方40cmまで良好な術後視力とコントラスト感度が期待でき、異常光視現象は想定通り概ね軽度であることが確認されているが、大瞳孔径ではハローが増大される傾向が示唆されるなど、新たな課題もわかってきた。また、総じて高い患者満足度が得られているが、ライフスタイル等の患者タイプに応じて特徴的な違いがあるのかどうか、この点についても明らかになりつつある。

更には、非常に柔らかい親水性Plate型IOLならではのInjectorの使いこなし方やトーリックモデルの軸合わせ/固定等の操作性におけるコツや留意点についても様々なことが確認されてきている。

今回のセミナーでは、アクリバトリノバProの術後の視機能や満足度に関して更に深く掘り下げてみるのと同時に、操作性の観点からの評価も加え、利点と課題点の両側面からアクリバトリノバProの等身大の実力・期待値を明らかにし、今後の臨床貢献の可能性について展望してみたい。

演者 1



術後視機能からの展望  
鵜飼 祐輝 先生(金沢医科大学)

演者 2



術後満足度からの展望  
安藤 祐子 先生(総合新川橋病院)

演者 3



操作性からの展望  
竹下 哲二 先生(上天草総合病院)

座長



## 佐々木 洋 先生 (金沢医科大学)

1987年 金沢大学 卒業  
1987年 自治医科大学眼科学教室 入局  
1991年 米国オークランド大学眼研究所 研究員  
1993年 自治医科大学眼科学教室 助手  
1996年 金沢医科大学眼科学講座 講師  
2005年 金沢医科大学眼科学講座 教授  
2007年 中国医科大学 客員教授  
2009年 東北文化学園大学視覚機能学専攻 客員教授  
2018年 特定非営利活動法人 紫外線から眼を守るEyes Arc 理事長

演者  
1



## 鵜飼 祐輝 先生 (金沢医科大学)

2016年 新潟医療技術専門学校 視能訓練士科 卒業  
金沢医科大学病院 入職  
2021年 九州保健福祉大学大学院 保健科学研究科 博士前期課程 終了  
2025年 金沢医科大学大学院 医学研究科 博士後期課程 終了  
2025年 金沢医科大学 視能訓練士 主任

演者  
2



## 安藤 祐子 先生 (総合新川橋病院)

1988年 東海大学医学部 卒業  
1989年 国立東京第二病院  
1994年 総合新川橋病院  
1997年 総合新川橋病院 眼科医長

演者  
3



## 竹下 哲二 先生 (上天草総合病院)

1987年 熊本大学 卒業、同眼科学教室 入局  
1993年 熊本大学大学院 卒(医学博士)  
1993年 上天草総合病院 眼科医長  
1994年 人吉総合病院 眼科部長  
1995年 熊本大学医学部 助手  
1998年 山鹿市立病院 眼科長  
2003年 宮崎医科大学(現宮崎大学医学部) 講師  
2003年 上天草総合病院 眼科部長  
2014年 上天草総合病院 副院長兼眼科部長  
2018年 上天草総合病院 院長代理兼眼科部長  
2023年 熊本大学教育学部 客員教授(2026年3月まで)